

# スポーツイベント企画・運営のマーケティング実践 ～生涯スポーツの推進に向けた陸上競技大会の開催～

## 1 目的・概要

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック、さらに2021年には関西で世界最大の生涯スポーツの祭典であるワールドマスターズゲームズの開催が予定されており、私たちは、そこに向け、陸上競技を生涯スポーツにしてほしいという願いのもと活動している。しかし、陸上競技を始めたいと思っている人も多くいるが、なかなか始められない現状があることを踏まえ、そのような人々に生涯スポーツとしての陸上競技を始めてもらうきっかけとなるイベントの開催を目指した。



### Annual Schedule

---

|       |     |                                      |
|-------|-----|--------------------------------------|
| 2018年 | 6月  | 春イベント「走ってQ～新たな趣味見つけませんか?～」開催         |
|       | 8月  | リトリート合宿                              |
|       | 12月 | 秋イベント「いざ、繋がRUN!～基礎を知り、広がる未来、増える友～」開催 |

---

## 2 成果達成度



春学期は陸上競技の良さを伝えたいという思いのもと、初めてイベント企画をし、開催した。まずは自分たちの思いを明確化し、それに合った目的、ターゲットの設定を行った。合わせて企画書の作成も行ったが、ここに多くの時間をかけてしまったためにイベントのプログラム設定や集客に時間がさげず、予定参加者数を大きく下回る結果となった。しかし、特に、ターゲットの設定や集客方法などで全員がさまざまな課題を発見し、秋イベントにつながる活動ができた。

秋学期は、春イベントの反省を生かしてプロジェクトの集大成となる秋イベントを開催した。春イベントでは、目的とターゲット、ターゲットと実際の参加者にずれが生じ、十分な成果が得られなかったため、ターゲットの決定に時間をかけた。また、集客期間を長く確保するために企画書の作成を早めに行う、多くの参加者を集めるために、ポスターの作成、ビラの配布、SNSの利用を積極的に行うなど、様々な工夫を行った。春イベントに参加していただけなかった陸上競技未経験者を集客するためのプログラムを考える中で、ランニングシューズ、練習方法に関する知識が必要であると考え、ゲストの決定、交渉、打ち合わせまで自分たちの手で行った。さらに、イベント終了後も陸上競技を続けてもらうためにワールドマスターズゲームズの紹介や、地域の陸上クラブの紹介、自身の足の形状やおすすめの練習メニューなどを記入できるパンフレットを作成したことは、春イベントではできなかった取り組みである。



一年間を通して、陸上競技を生涯スポーツにしてもらうために、陸上競技のきついというイメージを払拭すること、未経験者に陸上競技の良さを知ってもらうこと、陸上競技の楽しさを伝えるために企画したイベントに参加してもらうことは簡単ではないことがわかった。しかし、陸上競技で交流を図ることができる工夫や基礎知識を提供する初心者向けのプログラムの作成、ワールドマスターズゲームズや地域の陸上クラブの情報の提供、さまざまな告知方法の実施を行ったことで、多くの人に生涯スポーツとしての陸上競技に興味を持ってもらうことができた。また、イベントの企画・実施を通して、普段の講義では出会えないような参加者やゲストとのつながり、さらにはメンバー間のつながりをつくることができた。

# 3 プロジェクトを通じて

自分たちの力でイベントを開催してみたいという同じ気持ちを持った仲間と一つの目標に向かって取り組めたこと、自分たちの思いの明確化、目的にあったターゲットの決定・プログラムの作成、ゲストの交渉・打ち合わせ、事前準備などのイベントを開催するにあたって必要なことを身をもって感じる事ができたことで、とても充実した時間になった。自分たちの思い通りにならないことばかりだったが、探求心を持って、一歩先まで考える必要があることに気づけたことはとても勉強になった。プロジェクトを通して、社会に生涯スポーツとしての陸上競技を広めるにはまだまだ時間が必要であると感じたが、少しの工夫によって多くの人に陸上競技の魅力を知ってもらえるのだと思った。



## 編集後記

私はプロジェクト科目を通して、自分がとても成長できたと感じています。体育会活動も忙しく、時間的にも精神的にも大変だった時もありましたが、辛さをはるかに超える達成感と充実感がありました。普段の生活ではできないような経験ができること、自分たちの思いが形になること、そしてなにより、自分と同じ思いを持った仲間と出会えることがプロジェクト科目の魅力だと思います。成果報告書の作成を通して、自分が本プロジェクトで学んだことを振り返ることができました。片山若奈

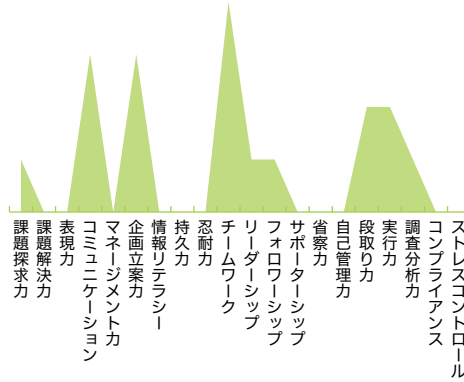
## プロジェクトメンバー

柴田 美和(スポ3) 佐藤 玲央(理工3) 岡田 紗映(文3) 宮田 俊太郎(スポ3) 梅原 千枝(スポ3)  
片山 若奈(スポ3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

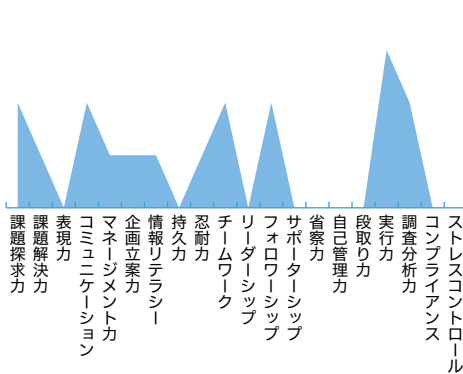
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

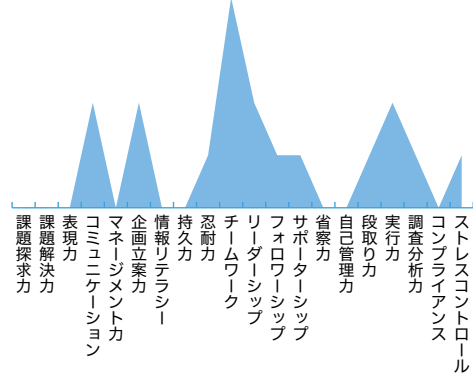


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

